

令和5年度事業報告

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(6)
3. 編集委員会	(6)
4. 学術委員会	(7)
5. 統計調査委員会	(10)
6. 専門医制度委員会	(11)
7. 国際学術交流委員会	(13)
8. 評議員選出委員会	(15)
9. 保険委員会	(15)
10. 倫理委員会	(16)
11. 腎不全総合対策委員会	(16)
12. 危機管理委員会	(17)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(18)
14. 男女共同参画推進委員会	(18)
15. 感染対策委員会	(19)

II. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事	(20)
(2) 監事	(20)
(3) 評議員	(21)
(4) 退任した役員等	(26)
(5) 役員等の報酬等	(26)

② 会員に関する事項	(27)
------------	------

③ 職員に関する事項	(27)
------------	------

④ 役員会等に関する事項	(27)
--------------	------

⑤ 許可, 認可, 承認等に関する事項	(31)
---------------------	------

⑥ 重要な契約に関する事項	(31)
---------------	------

事業報告の附属明細書

1. 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況	(32)
------------------------------	------

2. その他の記載事項	(34)
-------------	------

I. 当法人の事業の状況

常置委員会活動

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第 68 回日本透析医学会学術集会・総会は、大分大学医学部附属臨床医工学センター 診療教授 友 雅司 会長が主宰し、2023 年 6 月 16 日（金）、17 日（土）、18 日（日）の 3 日間、神戸コンベンションセンター（神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテル）を会場として開催した。

今回のテーマは「知行合一 技術の実装と知識の実践」を掲げて開催し、参加者は 17,021 名であった。

<特別講演>

「温故知新～日本の透析療法の歴史を語る～」, 「血液浄化におけるパラダイムシフト」, 「腎臓再生医療の現状と課題」, 「AI 活用の基礎的リテラシー」, 「重症化予防と共同意思決定の推進に向けて」, 「目前に迫る異種腎移植」, 「透析医療における臨床工学技士の業務拡大と今後の展望」, 「現代によみがえる陽明学：現代日本人最大の忘れ物「心」を取り戻すために～吉田松陰先生を通して～」, 「末期慢性腎臓病の診断および治療における血中タンパク質 AIM の意義」

<招待講演>

「Latest trends in on-line HDF」, 「Kidney replacement therapy in the world」, 「Dialysis situation in Kenya」, 「A New Definition of Uremic Toxicity」, 「Experience and Evaluation of Antioxidant Functional Membranes in Europe」

<会長講演>

「透析医療における「知行合一：技術の実装と知識の実践」

<会長特別企画>

「a1MG～温故知新」, 「化学プール透析の基礎と未来への展望」, 「鼎談「少し血液浄化の話をしましょうか！～若手技術者・研究者に向けたメッセージ～」

<教育講演>

「透析液清浄化と排水管理の最前線」, 「透析患者に合併した心房細動の管理」, 「透析室管理指針～チーム医療、迷惑行為対策、ACP、SDM、CKM」, 「透析患者の健康寿命をどう捉えるか？」, 「機械学習や人工知能の必要性とその活用法」, 「生体腎移植ドナーの移植（ドナー腎摘出）後の腎機能と予後」, 「世界と本邦のガイドラインを用いて腹膜透析を行う」, 「透析患者のスキンケア～皮脂欠乏症診療の手引き 2021 を踏まえて～」, 「透析医療における 2 つの安全マネジメント～Safety-I と Safety-II」, 「アフレスス療法の最新の話」, 「高齢透析患者の意思決定支援」, 「透析患者への骨粗鬆症治療」, 「各ガイドラインにおける急性血液浄化療法」, 「医療現場で役立つ質の高い臨床研究」, 「blood volume 計を用いた細胞外液の過剰量（OH）の測定」, 「透析患者の運動療法 ～多職種で関わる運動支援～」, 「透析医療現場での倫理指針」, 「透析患者のリコンtrol～Up to date～」, 「行動変容をもたらす医療コミュニケーション」, 「改めて考える HDF の適正設定」, 「透析患者の足病について」, 「新しい心不全治療薬」, 「糖尿病性腎症と糖尿病性腎臓病」, 「透析室感染管理」, 「高齢者のバスキュラーアクセス」, 「療養生活における行動変容への支援のあり方」, 「Patient-reported outcome をどう評価し対応するか」, 「透析患者と関わるスタッフのケア～看護職に焦点をあてて～」, 「在宅訪問医から診た透析医療」, 「透析患者への漢方薬の使い方」, 「透析中の多発性嚢胞腎患者の管理」

<シンポジウム>

「CKD-MBD ガイドライン改訂に必要なデータを吟味する」, 「チームで行うポリファーマシー対策」, 「末

期腎不全患者における新しい栄養管理」,「高齢化社会における腎代替療法を再考する」,「透析患者における不整脈対策」,「透析患者の喪失に対するサイコネフロロジー」,「透析導入疾患の変遷」,「透析装置の運転補助機能の功罪とこれから」,「透析腎臓の最新の知見」,「急性腎障害 (AKI):心不全に伴う WRF, AKD (Acute Kidney Disease) について, 薬剤 (特に免疫チェックポイント阻害薬」,「血管石灰化の新たな成因と治療戦略」,「在宅血液透析における遠隔医療の可能性」,「腎硬化症による透析導入患者の減少は可能か」,「Now and Future of International Development of Hemodialysis Technology Support」,「VAIVT 新治療戦略」,「HD とオンライン HDF の生命予後 Up to date」,「長期透析患者に対する腎移植」,「血液浄化におけるモニタリング技術の進歩とその有効活用」,「透析患者における終末期医療・介護と Advanced Care:透析患者の Planning」,「生体ドナーの透析導入にまつわる諸問題」,「もっと自由に, 心のままに~男女共同参画~」,「新資格「腎代替療法専門指導士」がもたらしたもの」,「透析医療をいかに学生に教育するか」,「透析患者における血圧コントロールを考える」,「認知症, せん妄患者の透析室での対応」,「腎代替療法導入後の腎原疾患の病態と再燃, 再発への対処」,「International Symposium with VAS, VASA, APSDA, GeMAV and ASDIN」,「令和 6 年診療報酬への期待」,「透析患者重症化予防へ向けた取り組み」,「長期安定した PD を達成するための課題解決」,「低体重血液透析の進化」,「透析患者における貧血治療最前線」,「わが国に適した在宅血液透析専用装置のコンセプトと周辺技術開発の展望」

<合同企画シンポジウム>

「サイバーセキュリティの現況と対策 特に透析関連施設について」,「腎臓リハビリテーションを普及させるためには??」,「血液浄化療法における AI の実装と実践」,「透析液濃度管理の標準化を考える」

<日台韓合同シンポジウム>

「New developments in targeted substances for removal in blood purification therapy.」

<ワークショップ>

「透析患者の骨粗鬆症治療:限られたエビデンスをどのように考えるか?」,「長時間透析 ~その是々非々を問う~」,「小児の腎代替療法選択」,「透析施設における透析の IT 化や AI 化の取り組み」,「透析施設における感染症対策~コロナウイルス感染症 before and after ~」,「透析情報の標準規格開発ならびに透析診療施設間連携支援の標準化」,「透析関連モニタリング技術の最前線」,「透析患者の低栄養対策 Up To Date」,「透析医療事故の現状とその対策」,「PD 療法における new パラダイム」,「在宅血液透析の課題と展望」,「透析システムにおける省エネルギー対策」,「新規デバイスが普及してどう変わったか, 変わらないのか?」,「末期腎不全緩和医療の診療ガイドへの模索」,「足を知り, 足を守る看護実践」,「次世代透析デバイスを臨床現場へ」,「様々な腎代替療法選択支援の看護実践」,「透析患者の CLTI 治療の最前線」,「多職種で考える腎代替療法選択支援」,「災害時の透析対策・避難所での透析患者の対応」,「透析分野での医師の働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアの進捗状況—臨床工学技士の告示研修の進捗状況と業務内容の変化—」,「透析療法における腎臓リハビリと栄養管理」,「CRRT における血液浄化膜を科学する」,「高齢者透析患者の看護の実際」,「透析患者での HIF-PHI の意義」,「血液浄化膜の進歩と新しいダイアライザ・ダイアフィルタの必要性」

<学会・委員会企画>

「The status of dialysis patients in Asian countries under COVID-19 disaster: From the beginning to the era with COVID (2019-2023)」,「病院研修に代わる対面式およびオンラインセミナーへの期待」,「血液透析器の機能分類を再考する」,「臨床研究から明らかになってきた透析患者の栄養課題」,「機構認定サブスペシャリティについて」,「Dialysis therapy, year in review 2022」,「TSUBASA PROJECT」,「WADDA システムをどう使いこなすか?」,「The present status of conservative kidney management (CKM) in Asian countries」,「次期〔2024〕診療報酬改定に向けての取り組み」,「高齢者の末期腎不全医療を考える」,「新技術で実現する血液浄化における知行合一」,「透析患者の糖尿病治療ガイド改訂に向けて」,「JRDR から世界へ~ハイインパクトな論文はいかに生み出されるか?~」,「With コロナ時代における

る透析施設での感染対策], 「国際標準の COI の考え方と COI 管理の実際」, 「透析医療事故と医療安全に関する調査報告」, 「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン改訂の方向性」, 「慢性腎臓病患者に特有の健康課題に適合した災害時診療体制の確保に資する研究の成果と提言」

<わかる！できる！やってみる！シリーズ>

「エコーガイド下穿刺の基本～エコーの基礎と手技について～」, 「はじめよう在宅血液透析」, 「よくわかる透析患者の骨関節痛の原因と対策」, 「はじめてでもできる AI 入門」, 「論文発表したければデザイン力から磨きなさい」, 「コメディカルのための国際学会発表入門」, 「はじめよう学会発表! まずは症例報告から」, 「初学者でもわかる患者中心の医療」, 「よくわかる！透析患者の便秘対策」, 「過去の事例から学ぶ血液透析の問題点と解決への軌跡」, 「安静 12 誘導心電図の活用」, 「透析中の穿刺痛と血管痛を軽減させるためには」, 「はじめよう透析中エクササイズ」, 「ウレミクトキシン入門」, 「初めてでもわかるカテーテル管理のポイント」, 「勤めてみよう献腎移植登録」, 「よくわかる透析患者の認知症対策」, 「よくわかる透析膜の使い分け（除去性能と生体適合性）」, 「わかる貧血管理」, 「管理栄養士以外でもできる栄養指導入門」, 「よくわかる長時間透析」, 「よくわかる血圧変動対策」, 「CE でなくてもわかるオンライン HDF」, 「よくわかる透析患者へのアフアレシス」, 「よくわかる「体重増加の多い患者さん」への対応」, 「よくあるヒヤリ・ハット事例や医療事故への対策」, 「あなたも明日から患者さんへ説明できる腎移植」, 「腹膜透析を管理するために知っておくべきこと」, 「よくわかる透析患者における微量金属元素」, 「透析患者における悪性腫瘍：スクリーニングとその対策」

<企業共催シンポジウム>

「HIP-PH 阻害薬の適正使用を目指して～網膜症／黄斑浮腫・悪性腫瘍・血栓塞栓症を中心に～」, 「CKD-MBD 治療における予後を踏まえた副甲状腺管理」, 「PD 診療のポテンシャルと臨床的意義」, 「明日からの CKD-MBD 管理を考える」, 「CKD-MBD 治療の未来予想図～変わることと変わらないこと～」, 「HIF-PH 阻害薬の使い方を再考する～これまでとこれから～」, 「PD 管理の現状と今後の展望」, 「DOPPS Symposium」

<企業セミナー>

ランチョンセミナー, スイーツセミナー, イブニングセミナー

<その他>

6月16日（金）医療安全講習会

6月17日（土）医療倫理講習会

6月18日（日）感染対策講習会

※6月16日（金）～6月30日（金）オンデマンド配信 日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

2) 通常総会

第68回通常総会開催：2023年6月15日（木）16：00～神戸市中央区港島中町6-9-1 神戸コンベンションセンター（神戸国際会議場, 神戸国際展示場, 神戸ポートピアホテル）において開催した。定款第30条に基づき, 定足数以上の評議員の出席が確認され, 本総会は適法に成立した。定款第28条に基づき, 第68回日本透析医学会学術集会・総会会長である友 雅司会長が議長を務めた。

各常置委員会委員長から資料に基づき, 令和4年度事業報告および令和5年度の事業計画の報告があり承認された。令和4年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等, 監事による監査報告があり承認された。定款施行細則第2条第2項に基づき, 名誉会員として中元秀友先生, 竜崎崇和先生が理事会で承認され, 本総会に推薦され承認された。令和8年第71回日本透析医学会学術集会・総会会長候補として兵庫医科大学 倉賀野隆裕先生が理事会で選任され, 本総会で承認された。

また, 理事会で承認され, 第68回日本透析医学会学術集会・総会に名誉会員として推薦され承認された中元秀友先生, 竜崎崇和先生の名誉会員表彰と第68回日本透析医学会学術集会・総会の学会賞, 奨励賞, コメディカルスタッフ研究助成者に, 2023年6月17日（土）神戸ポートピアホテル南館ポートピアホール第1

会場で授賞式を行い、学会賞受賞者の記念講演を開催した。

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催：2023年6月1日(木)・6月15日(木)・12月1日(金)・
2024年3月29日(金)に開催

(2) 監事による監査会開催：2023年5月16日(火)に開催

4) 透析施設会員名簿の発行

透析施設会員名簿のデータを各施設から集め発行の手続きをとった。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会(脇野 修委員長)

学会ホームページの円滑な運営、内容の充実化において、学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行った。

(2) 透析医療専門職資格検討委員会(酒井 謙委員長)

慢性腎臓病療養指導看護師・腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師制度・日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成(CKD分野)に関しては、本年度問題提起されず活動を行わなかった。

腎代替療法専門指導士については、日本腎代替療法医療専門職推進協会と連携を取り、各透析医療専門職が指導士資格を取得できるよう努めた。

(3) 統計調査のあり方小委員長(武本佳昭委員長)

① 統計調査データのWEB収集及びEDC(electric data capture)システムに関わる調査等を開始した。

② 本委員会及び統計調査委員会、統計解析小委員会の各委員に対し、わかりやすく理解するためEDCシステム導入についての講演会を実施した。

③ EDC推進検討ワーキンググループと共同してEDCの導入を検討した。

(4) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会(山下明泰委員長)

① 東南アジア8か国の透析スタッフ(医師、看護師、その他)に、わが国の施設で研修を実施するプログラムは、COVID-19の影響を受け、2019年度(2020年2月実施予定)分から4期連続で取り止めてきたが、2023年度は対面式での研修再開を検討した。COVID-19以前に決まっていた研修候補者の確認および本人に対する参加意思確認や、研修運営会社を新たに選定する作業に時間を要し、研修は2024年の第69回日本透析医学会学術集会・総会に合わせて、東京～神奈川地区で実施することとした。

② 対面式研修の実施に伴い、昨年度、カンボジア、ベトナム、モンゴルを対象に実施して好評を得たオンラインでの研修会は実施しないこととした。

(5) 本学会のあり方小委員会(武本佳昭委員長)

① 公益法人移行に関しては、今後も継続審議していくこととした。

(6) e-ラーニング検討小委員会(菅野義彦委員長)

① 第68回日本透析医学会学術集会・総会の教育講演を収録し、会員専用ページMyWebにアップし、専門医は単位取得できるようにした。

また、専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにした。

② 運用については、ホームページ上で「e-ラーニング配信開始のお知らせ」を掲載し、本学会の会員(正会員、施設会員、賛助会員)へ周知した。

③ 単位の認定に関しては、出題された5問全てに正解することとし、全門正解するまで何度も冒頭に戻り繰り返し視聴できるようにした。

(7) 病気腎移植に関する検討小委員会(酒井 謙委員長)

2017年10月29日病気腎移植(修復腎移植)が先進医療Bとして厚生労働省に認可された。これに対して、日本泌尿器科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本臨床腎移植学会、日本移植学会の5学会は

合同で、外部委員からなる適切な当該医療の検証（外部委員派遣）が必要であるとの声明を出した。申請医療機関からの申請に対して、日本透析医学会は事前検証としての外部委員選定を2018年度に行ったが、現在まで当該申請における進捗はない状況である。

(8) 書籍発行運営委員会（長谷川元委員長）

日本透析医学会ブックシリーズとして、今後も本学会が発行する書籍等出版事案について検討していくこととしていたが、本年度は該当がなかった。

(9) 新型コロナ感染対策合同委員会（竜崎崇和委員長）

日本透析医会、日本腎臓学会と合同で活動している「日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会 新型コロナウイルス感染対策合同委員会」に、日本透析医学会感染対策委員会から数名の委員を派遣し、他の2学会と協調し、透析患者の感染状況の報告を取りまとめ、開示し得る情報や感染対策などをホームページ等にて会員や一般市民に開示・周知した。ただし、2023年5月8日に5類へ変更となり、合同委員会からの報告は5月24日時点までのものを5月26日に発表し、委員会活動も5月末日をもって終了となった。

(10) 台湾、韓国、本学会3学会シンポジウム推進小委員会（土谷 健委員長）

① 第68回日本透析医学会学術集会・総会において、同シンポジウムを開催する。

日程：2023年6月16～18日

テーマ：「血液浄化療法における Uremic toxin の展開」

(1) 座長：武本佳昭（大阪公立大学）

I-Wen Wu（Department of Nephrology, Keelung Chang Gung Memorial Hospital, 台湾）

Soon Kil Kwon（Renal Division, Chungbuk National University Hospital, 韓国）

(2) 演者：櫻井健司（橋本クリニック）

Tai-Shuan Lai（Division of Nephrology, Department of Medicine, National Taiwan University Hospital, Taipei, Taiwan）

Jee Young Lee（Konkuk University Medical Center, Seoul, Korea）

(3) コメンテーター：Yi-Chou Hou（Department of Nephrology, Cardinal Tien Hospital, New Taipei City, Taiwan）

Sung Gyun Kim（Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Hallym University Sacred Heart Hospital, Korea）

② 韓国腎臓病学会

日程：2023年4月29日（土） 12：50～14：50

開催地：韓国ソウル特別市内で実体開催

テーマ：「Vascular access in the elderly HD patients」

(1) 座長：深澤瑞也（加納岩総合病院）

(2) 演者：長沼俊秀（大阪公立大学）、小川智也（埼玉医科大学）

③ 台湾腎臓学会

日程：2023年12月10日（日） 11：30～13：00

開催地：台湾 台北

テーマ：「Dialysis adequacy in ESKD and related outcome」

(1) 座長：武本佳昭（大阪公立大学）

(2) 演者：番匠谷将孝（土谷総合病院）

(11) VA 血管内治療認定医制度検討小委員会（深澤瑞也委員長）

1) 昨年度のVA血管内治療認定医委員会の認定作業時に生じた様々な事務手続き上の問題点および疑義解釈を中心に本年度の申請に関する修正点をまとめ公表した。また申請者にわかりやすいようにQ&Aスタイルでまとめ、ホームページ上に公表した。

2) 申請作業は昨年度構築した申請システムを用いて昨年同様の秋からの申請, その後の審査を委員に依頼し判定を行った. 生じた疑義に関しては新しい判定基準に基づき再審査し, 最終的な疑義は委員全員の合議により判定を行った.

申請者数 160名

一次審査(審査委員) 合格 105名, 不合格 31名
追加資料請求 24名⇒追加資料提出

追加資料再提出(二次審査) 合格 18名, 不合格 3名
疑義 3名⇒判定会議

判定会議審査 合格 1名, 不合格 2名

最終結果

合格 105名+18名+1名 計 124名(合格率77.5%)

不合格 31名+3名+2名 計 36名

結果は理事会に報告し最終決定とし, 本人に対して結果発表並びに認定証を交付した.

また本年度の申請においても, 生じた問題点, 疑義解釈に対しては昨年度同様に翌年度以降の委員会への申し送りを行った.

3) 当会が主幹で作成した“人工血管被覆ステントバイアバーンの適正使用指針”では, 当会の術者基準は当会専門医で100例のPTA経験としていた. しかし同じく適正使用指針が公表されている“シャントDCB適正使用指針”の当会の術者基準である“VA血管内治療認定医”との差が生じていた. DCB使用時よりもより一層技術と知識を有することが求められる人工血管被覆ステントの術者基準が, DCB術者基準より緩いことは学会として容認すべきではないであろうとの当会の自主的な判断によったものであり, 改正は当会理事会で承認された後, 関連協議会のすべての学会の理事会承認を受け“人工血管被覆ステントバイアバーンの適正使用指針(第3版)”を公示した.

6) 学会との連携, 協力関係

(1) 日本医学会, (2) 日本医学会連合, (3) 日本医師会, (4) 日本慢性腎臓病(CKD)対策協議会, (5) 透析療法合同委員会, (6) 内科系学会社会保険連合, (7) 外科系学会社会保険連合, (8) 臓器移植関連学会協議会, (9) 末期腎不全治療説明用小冊子作成, (10) 糖尿病性腎症合同委員会, (11) 登録腎生検予後調査検討委員会, (12) 先行的献腎移植申請検査会, (13) 透析医療に関するグランドデザイン, (14) 日本透析医会との連絡協議会, (15) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力, 連携を密にしていく.

2. 財務委員会

2023年度事業として, 日本透析医学会を健全に発展させることを目指して運営した. また, 各事業に対して経費節減を心がけ, 2024年度予算を作成した.

3. 編集委員会

1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月1冊, 年間12冊を発行した.
- (2) 学術集会・総会特別号(抄録集)をSupplementとして発行した. ただし, 郵送は希望者のみに限定した.
- (3) 委員会報告として, 「学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会報告 血液透析濾過器の性能評価と使い分け」を2023年和文誌56巻3号に, 「危機管理委員会報告 透析災害対策の課題と先進事例」を56巻5号に, 「糖尿病性腎症合同委員会報告 糖尿病性腎症病期分類2023の策定」を56巻11

号に、「学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会報告 血液浄化器（中空糸型）の機能分類 2023」を 56 巻 12 号に、合計 4 編掲載した。

- (4) 編集委員会企画として「東京都酸素・医療提供ステーション（高齢者等医療支援型施設）における COVID-19 患者の透析医療」を 2023 年和文誌 56 巻 1 号に掲載した。
- (5) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を 2023 年和文誌 56 巻 12 号に掲載した。
- (6) 学術委員会の「Dialysis Therapy, 2022 year in review」を 2023 年和文誌 56 巻 12 号に掲載した。
- (7) 2023 年の掲載論文は、原著 16 編、総説 4 編、症例報告 24 編、その他（短報、透析看護・技術、研究速報、ガイドライン・委員会報告、Letter to editor など）16 編の計 60 編の掲載であり、2022 年の計 77 編を下回った。

2) 公式欧文誌「Renal Replacement Therapy」(RRT) について

- (1) 引き続きオンラインの Open Access Journal（著作権は CC-BY）として発行した。
- (2) Scopus, DOAJ, Web of Science などの主要な Abstract & Indexing サイトに掲載されている。
- (3) PMC (PubMed Central) への収載再申請を 2023 年 6 月に行ったが、不採択の審査結果であった。2025 年 6 月に再申請予定。
- (4) MEDLINE については、MEDLINE のポリシーにより、過去 2 年以内に PMC に reject されたジャーナルは申請できないこととなっているため、未申請の状態である。
- (5) 2023 年度 (2023 年 4 月) ~ RRT 誌が新たに日本血液浄化技術学会の公式英文誌として採用された。2022 年 6 月、Springer Nature 社と日本血液浄化技術学会の間で Affiliation Agreement 締結済み。
- (6) 2022 年度 (2023 年 4 月 ~ 2024 年 3 月まで) では、211 編の論文投稿があった。前年度の 144 編から大幅に増加した。掲載論文数は 62 編で 2022 年と同数であった。
- (7) 2023 年 (2023 年 1 月 ~ 2023 年 12 月までの集計) では、論文採択率は 39% であった (2022 年度は 41%)。
- (8) 2023 年 (2023 年 1 月 ~ 2023 年 12 月までの集計) では、わが国を含む世界 42 ヶ国からの投稿があった (2022 年度は 32 ヶ国)。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

学術委員の投票で候補論文を official journal『日本透析医学会雑誌』56 巻 (2023 年発行) と Renal Replacement Therapy (RRT) Vol.9 2023 の中から合計 10 編の候補論文を選定した。4 月 5 日までに評議員に 10 編の中から推薦論文 2 編 (1 位, 2 位) を選出し、その集計結果と、別に募集した公募論文 (4 編) の中から 4 月 18 日の学術委員会で、木本賞と奨励賞を選出した。

2) 学術委員会活動 (ガイドライン, 提言等の作成, 広報活動) 等に関する協議

以下の学術委員会の会合を定期的に行い、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行した。

3) 学術委員会 学術専門部小委員会 (小岩文彦委員長)

- (1) 2015 年から開催している Dialysis Therapy, 2022 year in review を第 68 回日本透析医学会学術集会・総会 (2023 年 6 月 16 日) において委員会企画として開催した。
司会：脇野 修 (徳島大学), 小岩文彦 (昭和大学藤が丘病院)
1) HD, HDF 友 雅司 (大分大学), 2) 感染症 菊地 勘 (下落合クリニック), 3) PD 山口 真 (愛知医科大学), 4) 糖尿病 阿部雅紀 (日本大学), 5) CKD-MBD 溝渕正英 (昭和大学), 6) アクセス 坪井正人 (安城共立クリニック), 7) 循環器 藤崎毅一郎 (飯塚病院), 8) 栄養 脇野 修 (徳島大学), 9) 貧血 土谷 健 (東京女子医科大学)
- (2) 各演者の先生に Dialysis Therapy, 2022 year in review の発表内容を原稿にして透析会誌に投稿を依頼

して 56 巻 12 号に掲載した。

4) 栄養問題検討ワーキンググループ (神田英一郎グループ長)

課題① 栄養問題検討ワーキンググループ企画

第 68 回日本透析医学会学術集会・総会にて、「臨床研究から明らかになってきた透析患者の栄養課題」を開催した。

課題② 慢性透析患者の栄養素摂取量の評価および予後の調査 (SUDACHI STUDY)

大塚製薬工場との多機関共同臨床研究 (SUDACHI STUDY) を開始した。本研究は、nutritional risk index for Japanese hemodialysis patients (NRI-JH) の低リスク群に該当する慢性透析患者を対象とした前向きコホート研究であり、栄養素摂取量および予後を評価する。Steering committee は日本透析医学会栄養問題ワーキンググループ、研究代表者は脇野 修学術委員会委員長である。

5) 腎性貧血ガイドライン改訂ワーキンググループ (倉賀野隆裕グループ長)

2023 年度は以下の日程で改訂委員会を実施し、改訂作業を進めた。

1. 第 5 回慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン改訂委員会を開催 (2023 年 5 月 19 日)
2. 第 6 回慢性腎臓病に伴う貧血治療ガイドライン改訂委員会を開催 (2023 年 10 月 28 日)

6) 慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン改訂ワーキング (深川雅史グループ長)

各章の担当者による web 会議を行うことによって、作成プロセスを進行させるとともに、3 回の対面の全体会議を行い、各章間の調整を行った。実際の作業としては、現在あるエビデンスを整理し、可能なものはメタアナリシスを行った。エビデンスが十分でないものに関しては、日本透析医学会のデータベースをはじめとして、DOPPS のデータベースの解析を積極的に行い、原著論文として投稿した。以上をもとに、ステートメント、ブラックティスポイントならびにその解説の原案を作成し、評価委員にまわして意見を求めて、適切な修正を行った。

7) 血液透析患者の糖尿病治療ガイド改訂ワーキンググループ (阿部雅紀グループ長)

協力委員として 3 名の先生が加わり、ガイド改訂作業に協力して頂いた。「透析患者の糖尿病治療ガイド 2024」のドラフトを作成した。

8) バスキュラーアクセスガイドライン追補に関するワーキンググループ (深澤瑞也グループ長)

本年度において、血栓溶解剤ウロキナーゼの供給停止などによりバスキュラーアクセス治療に対して環境が激変した。このため、ウロキナーゼ使用困難による加療の変化あるいは新規デバイス等の上市など、今後短期間に大きな変化が生じる可能性があることから、現在活動が休止している状況である。今後、状況が安定した時点で、今までの検討点 (人工血管狭窄症、難治性再発性シャント狭窄症) も踏まえて作業を再開する予定。

9) ウロキナーゼ供給困難下における VA 血栓性閉塞に対する代替医薬品の検討に関するワーキンググループ (深澤瑞也グループ長)

血栓溶解剤ウロキナーゼ (UK) の出荷停止に伴う VA 血栓性閉塞に対する治療法に関して、急遽設定されたワーキンググループ。まずは関連学会の協力も仰ぎ、UK 使用困難な状況下での会員の対応策をアンケート調査した。現在解析中であるが、UK 使用困難に伴い再建術などの増加があり、長期間の安定した HD のために危惧される内容が抽出されている。今後集計中のアンケート調査内容は、透析会誌等に投稿予定。

また、シャント系アクセスおよび長期留置型カテーテルに対する UK 使用困難による対応策は、現在国内外の論文の調査にかかっている。掲載論文の抽出は終了し、現在各々の班の内容を論文化作業している状況である。また、シャント系アクセス血栓性閉塞に対する血栓除去デバイスが本邦では限られていることから、海外で使用されるデバイスに関しても調査中であり、今後本邦への導入に対して製造社への導入依頼、並びに協調しての導入依頼を PMDA 並びに厚生労働省への働きかけの準備中である。

10) 末期腎不全の緩和医療・ケアに関する提言作成委員会 (酒井 謙委員長)

日本透析医学会では、2014 年に「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」

で、「維持血液透析の見合わせ」について検討する状態を示した。さらに2020年には、「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」を学会として社会に公表し、SDM、ACPに加え、CKMの概念は、腎臓内科医、透析医のみならず、一般社会にも広まってきた。

今回この委員会においては、CKMの技術的な問題、社会的問題、緩和医療、法制度的問題を根柢をもって明らかにし、わが国におけるCKMの腎不全医療における位置づけと方法論を明確にする。以上を、脇野修学術委員長が令和5年11月1日の学会理事会提案を行い、委員長に酒井謙が着任した。

1. CKMの本邦における社会的な問題点（医療倫理）
2. CKMの本邦における法律上の問題点（自殺ほう助、自殺教唆）
3. 生存権 患者の権利、認知症患者の生存権
4. CKMの腎不全医療における位置付け
5. 腎代替療法との比較（4つの選択肢と並立か否か）
6. 人生の最終段階における医療とケアとしての意義
7. CKM実践における医療とケアの問題点
8. 薬物療法（オピオイド 非オピオイド 鎮痛補助薬 保険診療で投薬可能かも含めて）
9. 非薬物療法（栄養療法 酸素投与 高カロリー輸液、補助栄養剤は可能か）
10. 精神・心理・霊的療法など（精神科医師・臨床心理士の介入が保険診療上可能か）

【診療報酬】緩和ケアとしてのCKM 緩和ケア病棟への入院、一般病棟入院患者への緩和ケアチームによる診療加算について

以上を、脇野修委員長が個々の素案の提案を行い、土谷健、酒井謙、中元秀友、岡田一義で、修正協議された。

11) 小委員会活動

(1) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）

- ① 前年度の2名の委員の退任を受けて、今季新たに2名の委員（臨床系）に参加いただいた。
- ② 第67回日本透析医学会学術集会・総会に引き続き、第68回日本透析医学会学術集会・総会（令和5年6月）においても委員会で議論した成果を、委員会企画「新技術で実現する血液浄化における知行合一」で公表した。演者は新委員2名を含む6名で、これまでにはなかったテーマや継続テーマの新しい切り口を示すことができ、参加者の好評を得た。
- ③ 今後の活動（研究会合）も、オンラインを中心に行うこととした。

(2) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会（友雅司委員長）

- ① 日本透析医学会、日本透析医会、JACE（日本臨床工学技士会）との3団体共同「透析排液管理ワーキンググループ（峰島三千男グループ長）」：2023年2月20日、12月12日にワーキンググループの会議をオンラインにて開催した。また第68回日本透析医学会学術集会・総会、教育講演などを通じ「透析排水の適正管理」に関する検討を行った。得られた成果を、関連学術集会などを通じて啓発活動を行った。
- ② ISO・IEC対策ワーキンググループ（川西秀樹グループ長）：日本の見解を反映させるべくISO・IEC会議に委員を派遣し討議を行った。
- ③ 第68回日本透析医学会学術集会・総会において委員会企画「血液透析器の機能分類を再考する」を開催した。
- ④ 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会報告「血液透析濾過器の性能評価と使い分け」を出版した。
- ⑤ 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会報告「血液浄化器（中空糸型）の機能分類2023」を出版した。

(3) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（阿部雅紀委員長）

① 体験参加型セッションの開催

② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催
上記計画したが、COVID-19の影響もあり、開催には至らず。

(4) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（脇野 修委員長）

令和6年度のコメディカルスタッフ研究助成基金の申請受付を行ったところ4件の申請があった。5名の委員の先生による審査の結果

日比野貴志（偕行会城西病院・理学療法士）

「内シャントに対する経皮的血管形成術が透析中運動療法の循環動態に与える影響：同一運動負荷による検討」

鈴木康二郎（松本市立病院・臨床工学技士）

「ダブルクランプ式シングルニードル透析の開発と臨床効果」

の2件に助成することが3月18日決定した。

(5) 透析医学用語集作成小委員会（土谷 健委員長）

透析医学用語集を改訂する方針とし、実際の作業を開始する。関連学会として、「日本腎臓学会」「日本アフレスス学会」及び「日本急性血液浄化学会」からの委員に参加を仰ぎ、「日本腹膜透析医学会」に可能な委員の派遣を依頼する。日本腎臓学会用語委員会と連携して用語集の改訂に向けて活動を計画したが、各関連委員会との都合があわず、本年度は開催されなかった。

5. 統計調査委員会

1) 2022年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査と報告

① 「わが国の慢性透析療法の現況(2022年12月31日現在)」を日本透析医学会雑誌56巻12号に掲載した。

② CD-ROM版「わが国の慢性透析療法の現況(2022年12月31日現在)」を調査協力非会員施設に送付した。（施設会員には配布せず、学会ホームページ、WADDAシステムをご参照いただく）

③ 上記現況報告の英文化・RRT誌への投稿作業中である。

④ 上記現況報告のPDFファイル、PPTファイルを学会ホームページに掲載した。

⑤ 2022年調査結果を統計調査データベース、WADDAシステム（自動集計、研究データ切出し）に取り込み、学会ホームページの会員専用ページでWADDAシステム（自動集計）の2022年版を公開した。

2) 「わが国の慢性透析療法の現況(2020年12月31日現在)」をAnnual Dialysis Data Report 2020, JSDT Renal Data Registry (JRDR)として、Renal Replacement Therapy (2024)

Article number : 14 (2024), DOI /10.4009/jsdt.54.611として掲載した。

3) 2023年12月31日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査の実施

① 2023年の調査計画について倫理審査を依頼し、承認後UMINに公開した。

② 全国の透析施設に対して2023年末わが国の慢性透析療法の現況調査を実施した。

新規調査項目として、VA管理におけるエコー使用状況、腎臓リハビリテーション、2023年1年間のイベント発症等の調査を行った。

③ 2024年4月1日現在収集作業中であるが、ほぼ例年並みの回収状況である。

4) WADDAシステム、学術研究用データ切り出しシステムの改善

① 学術研究用データ切り出しシステムについて、1983~1999年のデータを取り込んだ。

5) 統計調査管理台帳システムの改善

① 統計調査管理台帳システムをさらに改善するため、一部システム変更を行った。

- 6) 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会において以下のセッションを開催・企画した。
 - ① 統計調査委員会企画：「WADDA システムをどう使いこなすか？」
 - ② 統計調査委員会企画：「JRDR から世界へ～ハイインパクトな論文はいかに生み出されるか？」
- 7) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化
 - ① 学術委員会等他委員会と協力の上 JRDR データベースの解析，論文化を解析小委員会中心に行った。
 - ② 2023 年は JRDR を用いた研究結果 英文 11 編，和文 4 編が掲載された。
- 8) 統計調査結果の英語版ホームページの充実
 - ① JRDR の調査結果を広く海外に発信するために，英語版ホームページの充実に努めた。
- 9) 国内・国際協力の推進
 - (1) 米国腎臓データシステム (USRDS) に対して，データ提供を行った。
 - (2) 国際腎臓学会 (ISN) 主導の途上国におけるレジストリ立ち上げプロジェクトである SharE-RR への参加を行い，Web 会議で意見を交換した。

統計解析小委員会

- (1) 学術委員会など学会内諸委員会と協同した各小委員の解析計画をブラッシュアップし解析を進めた。
- (2) JRDR を用いた研究計画および他団体・他学会から申請のあった研究計画について審議した。

地域協力小委員会

- (1) 2023 年末調査回収のため，各地域において，未回収施設に対する電話や FAX による督促を行った。
- (2) 統計調査への理解を深めるため地域協力員に，統計調査委員会議事録のダイジェスト版を送付した。

6. 専門医制度委員会

1) 専門医制度委員会

一般社団法人日本専門医機構 第 1 回機構認定サブスペシャリティ領域懇談会が開催され，2023 年度のサブスペシャリティ領域専門研修細則改定にて，日本透析医学会はカテゴリー名称変更がなされた。

(2023 年 8 月 29 日) 第 2 回機構認定サブスペシャリティ領域懇談会は (2024 年 1 月 29 日) 基本領域のみの招待で，日本泌尿器科学会は参加，日本透析医学会は不参加であった。2 回にわたる会議において，サブスペシャリティ領域専門医制度の基本理念は，

1. 基本領域を 1 段階とするが，学会単位ではなく診療領域単位で形成される
2. 研修方式
 - ・通常研修，連動研修，補完研修の研修方式とする
 - ・研修期間，重複などのルールは従来通り
 - ・カリキュラム制とプログラム制をとるとのことであった。

日本透析医学会であるが，1) カテゴリー 1 の機構が指定する領域に位置付けられた (機構が必要性を鑑みて指定し，基本領域サブスペシャリティ連絡協議会の推薦が必要)。2) 透析領域はカテゴリー 1 の Type III (診療支援分類) と分類され (病理などと同等) た。ちなみに Type I (臓器別領域) は日本腎臓学会，日本泌尿器科学会が存在する。カリキュラム必要条件は 100 症例 (必須 60 症例) で，傷病 and/or 手技を専攻医が主体的に経験できる研修の場を具体的に定める (例：〇〇診療部門に所属する等)，3) 統一した試験問題とする。領域ごとの選択問題は認めないとされた。

日本透析医学会では，1 月 29 日の第 2 回機構認定サブスペシャリティ領域懇談会にむけて，質問状を提出。日本透析医学会は，Type II (臓器横断型領域) (総合診療科と同様) が適切ではないか，に対して，主たる基本領域連絡協議会とご協議の上でご提案を願うとの回答であった。昨年来日本専門医機構への「新規認定領域」「学会認定機構承認」としての推薦を見送るとの回答が続いている現状である。以上，2023 年度の機構申請は未達である。なお，11 月 24 日に開催された，日本透析医学会専門医制度委員会では，通常の報告に加えて，下記審議がなされた。

- 1) カテゴリー 1 type II a) b) に入るべき (臓器横断型領域分類)
- 2) 補完研修でなく単独研修であるべき
- 3) 上記達成困難であるならば、機構から距離を置く姿勢に転ずるべき
という 3 項目の決議が、委員会全体で挙手が行なわれた。

2) 施設認定小委員会 (深澤瑞也委員長)

2023 年度 認定施設・教育関連施設 (新規・更新) 審査結果報告について

第 33 回 新規申請施設 審査結果について、申請のあった認定施設 13 施設は規約に適しており、教育関連施設 61 施設についても規約に適していることが報告され、承認された。これにより申請のあった認定施設 13 施設、教育関連施設 61 施設すべて認定された。

認定期限 2024 年 3 月 31 日までの更新申請施設 審査結果について

認定施設更新対象 57 施設のうち 54 施設より更新申請があり、54 施設では規約に則り承認された。教育関連施設更新対象 63 施設のうち 59 施設より更新申請があり、59 施設すべて規約に則り承認された。

全国規模学術集会認定申請について

『透析運動療法研究会』『日本腎不全合併症医学会』より申請があり、提出書類を元に審議した結果、両会とも申請条件を満たしているため、承認された。

3) 専門医試験小委員会 (矢内 充委員長)

2023 年度専門医認定試験結果報告では、本年度の専門医試験結果について説明がなされ、判定基準に基づいた合否判定結果 (案) を提示、承認を得た。

1. 受験者数

専門医認定申請者数	293 名 (2022 年度 268 名)
初回申請者	245 名
再申請者	43 名 (2022 年度 46 名)
特例申請者	3 名
資格喪失後再申請者	2 名
書類審査前申請辞退	1 名
業績不適格者	11 名
業績審査後受験辞退者	0 名
症例要約不適格者	0 名
筆記試験・口頭試問受験者	278 名

2. 科目別判定結果

症例要約

- ① 症例要約提出者 288 名 (3 名は特例申請者、2 名は資格喪失再申請者で要約再提出なし) で症例要約各 18 枚、総計 5,184 枚を分配して審査した。
- ② 配点は 1 症例について 5 点満点で採点、18 症例の平均点を得点とした。
- ③ 本年は B-2 (慢性腎不全透析導入症例) をサンプリング審査し、疑義もしくは不適と判定された 9 症例を委員会で検討、2 例に対して再確認のための資料提出を求めた。すべての症例で資料再提出が行われ、再審査の結果全例が適正であると判定された。
- ④ 全申請者の症例要約のうち 1 点以下または採点者から疑義のコメントが記載された 35 症例を委員会で検討、17 症例については再提出または確認のための資料提出を求め、再採点を行った。

筆記試験

- ① 例年通り MCQ 問題 100 問を出題した。
- ② 問題採択
正解率 50% 未満または識別指数マイナスの問題を抽出し、問題の適否判定をした。

2問を不適當問題として全員正解，3問に正答の追加を行い再採点を行った。

口頭試問

- ① 1名の受験者に対して2名の試験官とすることを正式に決定された。
- ② 評価はA, B, C, C-, Dの5段階とし，人格的，倫理観に問題がある場合は別途Rと評価し，倫理的減点を加えた。

3. 総合判定

(1) 合格判定

- ① 総合点：240名が合格基準を満たした。
 - ② 筆記試験：268名が合格基準を満たした。
 - ③ 口頭試問：278名全員が合格基準を満たした。
- 筆記試験での不合格者は全員総合点でも不合格であり，240名が合格と判定された。

(2) 合格率

全申請者中 $240/293 = 79.9\%$ (2022年度 81.9%)

筆記口頭試問受験者中 $240/278 = 86.3\%$ (2022年度 84.6%)

既受験者 $26/43 = 60.4\%$ (2022年度 65.9%)

上記が提示され，合格者の認定について承認を得た。

4) 専門医認定小委員会 (井尾浩章委員長)

専門医制度規則・施行細則一部修正について

井尾浩章専門医認定小委員会委員長より，以前の改正時に抜け落ちてしまった箇所や文言の修正である旨が説明され，承認された。今回の修正により専門医・指導医申請および更新条件に変更なし。

5) 研修プログラム小委員会 (小岩文彦委員長)

サブスペシャリティ領域の専門医制度の申請にあたり，日本内科学会や日本泌尿器科学会など多くの基本領域学会がプログラム制度を基本としていることから，カリキュラム制度の見直しの検討を開始した。

6) カリキュラム小委員会 (平和伸仁委員長)

- (1) 透析専門医としての「質」を継続維持していくため，「セルフトレーニング問題」を導入しており，編集会議でブラッシュアップを行い，その問題を学会誌に掲載し，所定の正答率をクリアした専門医・指導医には一定の研修単位(5単位)を認定した。応募者に問題・解答用紙(マークシート)を送付し，受付期間は5月1日～5月31日迄(消印有効)で実施し問題・正解・解説は8号に掲載した。掲載後に生じた疑義問題1問について，理事会に再度諮られ，承認を受け，訂正文が学会誌に掲載され，数人の繰り上げ正答率回答者を得た。

- (2) 提出されたe-ラーニング問題のブラッシュアップを実施した。

- (3) 2022年度は，専門研修トレーニング問題解説集，および専門研修指導マニュアルの改訂年度であり，平和伸仁カリキュラム小委員会委員長により改訂作業が始まり，2023年に第5版が刊行された。

7. 国際学術交流委員会

1. 第68回日本透析医学会学術集会・総会において国際学術交流委員会として下記の企画を実施した。

- 1) Symposium 1. The status of dialysis patients in Asian countries under COVID-19 disaster : From the beginning to the era with COVID (2019-2023)

Chairs : 兵藤 透, 倉賀野隆裕

【GI-01-1】 The status of dialysis patients in Asian countries under COVID-19 disaster : From the beginning to the era with COVID (2019-2023) : Republic of Korea

Sung Gyun Kim : Hallym University Sacred Heart Hospital, Anyang, Korea (on behalf of the

Korean Society of Nephrology COVID-19 Task Force Team)

【GI-01-2】 Evaluation of immune response after vaccination against covid-19 in patients treating with maintenance hemodialysis : a single-center study in Vietnam

Viet Thang Le : Faculty of Nephrology and Hemodialysis, Military Hospital 103, Ha Noi, Vietnam

【GI-01-3】 The status of dialysis patients in Asian countries under COVID-19 disaster : From the beginning to the era with COVID (2019-2023)

I Gde Raka Widiana : Division of Nephrology and Hypertension Department of Internal Medicine Faculty of Medicine Udayana University/ Sanglah General Hospital Bali, Denpasar, Indonesia

【GI-01-4】 The status of dialysis patients in Asian countries under COVID-19 disaster : From the beginning to the era with COVID (2019-2023) : India

Georgi Abraham : MGM Healthcare, Chennai, India

【GI-01-5】 Dialysis patients in Singapore during the COVID-19 pandemic from 2019 to 2023

Boon Wee Teo : Division of Nephrology, Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore, Singapore

【GI-01-6】 The status of dialysis patients in Asian countries under COVID-19 disaster : From the beginning to the era with COVID-19

Munekazu Ryuzaki : Department of Nephrology Tokyo Saiseikai Central Hospital, Tokyo, Japan

2) Symposium 2. The present status of conservative kidney management (CKM) in Asian countries

Chairs : 古波蔵健太郎, 平和伸仁

【GI-09-1】 The present status of conservative kidney management in Cambodia

Hy Chanseila : Chea Sim Hemodialysis Center, Calmette Hospital, Phnom Penh, Cambodia

【GI-09-2】 The present status of conservative kidney management (CKM) in Asian countries : focusing on Indonesia

I Gde Raka Widiana : Division of Nephrology and Hypertension Department of Internal Medicine Faculty of Medicine Udayana University, Bali, Indonesia/Sanglah General Hospital, Bali, Indonesia

【GI-09-3】 The present status of conservative kidney management (CKM) in Lao PDR.

Noot Sengthavisouk : Nephrology Department, Mittaphab Hospital, Vientiane Capital, Laos

【GI-09-4】 The Conservative Management for Elderly Patients with End Stage Renal Disease at a Tertiary Hospital in Viet Nam

Bui Pham Van : Nephrology-Urology-Transplantation Department, Pham Ngoc Thach University of Medicine, Nguyen Tri Phuong University Hospital, Ho Chi Minh City, Viet Nam

【GI-09-5】 The present status of conservative kidney management (CKM) in Asian countries : India

Georgi Abraham : MGM Healthcare, Chennai, India

【GI-09-6】 Conservative kidney management (CKM) in Japan ; Current status and issues to be resolved

Hirokazu Okada : Department of Nephrology, Saitama Medical University, Iruma-gun, Saitama, Japan

3) 一般講演 Free Communications

例年通り, 公募を行い6つのセッションで実施された.

4) Farewell Reception

開催されなかった.

2. 国際交流派遣事業

海外関連学会へ交流委員は派遣しなかった。

3. その他

国内外で開催される、関連国際学会へ各委員が独自に参加する。

8. 評議員選出委員会

一般社団法人日本透析医学会 第7回評議員選挙

日本透析医学会定款第20条、21条、22条及び日本透析医学会定款施行細則第14条、15条、16条並びに日本透析医学会評議員選出規則に則り第7回評議員の選出を行った。

- 1) 評議員選出規則第3条に基づき、選挙は全国統一地区と7の地方区に分けて行った。
- 2) 同規則第6条に基づき、定数220名の評議員を選出しその内80名は全国区、140名は地方区とした。
- 3) 同規則第7条に基づき、令和5年会誌10号に選挙の公示をし、10月1日付けで電子公告を行った。
- 4) 同規則第9条第1項に基づき、令和5年10月1日現在の有権者名簿を、会誌10号に公示し、10月1日付けで電子公告を行った。
- 5) 同条第2項に基づき、11月20日までに有権者名簿について、異議の申し立てを受けた。
- 6) 同規則第11条第1項に基づき、11月20日までに立候補の届け出を受けたが、届出期限である11月20日以降に1名の届出があり、届出を認めないこととした。
- 7) 同条第4項に基づき、12月1日までに立候補の辞退を受けつけたが、該当者がなかった。
- 8) 同規則第12条に基づき、候補者の氏名を令和5年会誌12号に公示し、12月上旬にホームページへの電子公告を行った。
- 9) 同規則第13条に基づき、令和6年2月15日に投票を締め切った。
- 10) 同規則第16条に基づき、投票終了後令和6年2月22日に開票立会人のもとに、開票を行った。
- 11) 同規則第21条に基づき、当選者が決定し、当選者に通知し、会誌公示し、電子公告を行った。また、会員専用ページにおいて、選挙結果情報（有権者数、投票者数、有効投票数、白票、無効枚数及び得票率）並びに立候補者の得票数及び得票率を開示した。
- 12) 同規則第22条に基づき、選挙結果発表日より14日以内に選挙効力に関し異議申し立てを受けた。

9. 保険委員会

2024（令和6）年度診療報酬改定に向けて諸準備を行った。

- 1) 2023年第68回日本透析医学会学術集会・総会において、保険委員会企画「次期〔2024〕診療報酬改定に向けての取り組み」として川西秀樹元委員長と深澤瑞也委員長の座長で下記演題の発表を行い討議した。
 - ① 診療報酬のアプローチ法（内保連、外保連） 川西秀樹先生
 - ② 新興・再興感染症に対する外来トリアージ加算 菊地 勘先生
 - ③ 在宅血液透析患者における遠隔管理加算について 本間 崇先生
 - ④ 体外循環用カテーテルに対する診療報酬のアプローチ 深澤瑞也先生
- 2) 内保連に対する活動
 - ① 新興・再興感染症に対する外来トリアージ加算：COVID-19の診療報酬への重点がなくなり今後新興・再興感染症が生じた際に透析施設における外来透析の継続性を担保するために新規に申請した。2月時点での中医協答申では認められなかった。
 - ② 「血清セレン濃度測定」の測定制限の緩和：臨床栄養学会と共同申請することとした。
 - ③ 在宅血液透析患者における遠隔管理加算：現在APDには認められているものの同じ在宅透析としての

CAPD, HHD は認められておらず申請する。2月の中医協答申ではHHDに関して記載があるもCAPDに関しては記載がなかった。厚生労働省からはCAPDへの適応は認める方針であるとのことであった。

3) 外保連に対する活動

- ① 透析用カテーテル挿入手技の注射コードから手術コードへの変更：再提出するも2月時点の中医協答申では記載なし
- ② 透析患者に対する心外膜を用いた弁置換術の外保連試案取載に関する依頼：患者会からの要望もあり心臓血管外科手術であるものの当会から新規取載を依頼した。最終的には胸部外科学会の反対もあり外保連においては多数決の原則から取載見送りとなった。

4) 厚生労働省への陳情

患者会から当会並びに日本腎代替療法医療専門職推進協会に、心外膜を用いた弁置換術の透析患者に対する新技術の保険取載に対する要望を受け、日本腎代替療法医療専門職推進協会の中元理事長、秋野参議院議員とともに厚生労働省へ透析患者における全身合併症加療に対して透析医の関与を行うことで何らかの加算等を設定していただき、積極的に透析医が合併症加療に関与することを推進することを要望した。

10. 倫理委員会

1) 倫理委員会の開催

- (1) 統計調査臨床研究倫理審査について審議し承認した。
- (2) 検討小委員会が審査を経て承認し報告のあった研究倫理審査6件について、承認し理事長に答申し申請者に通知した。

2) 研究倫理に関する検討小委員会の開催

研究倫理審査の申請のあった6件の予備審査および検討小委員会の審査を経て承認し、倫理審査委員会に報告した。

3) 個人情報管理

個人情報（評議員、正会員氏名、所属、施設会員名簿）の提供依頼があり

- (1) 個人情報管理者の承認を得るもの（規則第4条関係）
12件申請があり、12件を承認した。

11. 腎不全総合対策委員会

当委員会では、腎代替療法へのスムーズな移行や、透析・移植患者のQOLの改善を目標に、毎年のテーマを決めて検討を行ってきた。2023年度は、高齢者の末期腎不全対策を主要なテーマとして学会企画を実施するとともに、バスキュラーアクセスの作成と管理状況について活動した。

1) 腎代替療法へのスムーズな移行に関する検討

透析導入前から透析導入期にかけてバスキュラーアクセス作製の実施時期や作製を担当した医師（診療科など）、導入期のアクセス使用状況、インターベンションの必要性、などの実態調査を実施した。

2) 高齢者の末期腎不全対策

年々増加する高齢患者のスムーズな腎不全管理や問題点にスポットを当てた。このテーマは数年前にも企画されたが、新型コロナウイルスの影響や透析見合わせ、透析非導入などの新たな医学的問題を透析医療に関わる医療人として再考する必要がある。本年度は第68回日本透析医学会学術集会・総会で「高齢者の末期腎不全医療を考える」と題して下記の5演題による委員会企画を開催した。

司会：伊藤孝史（帝京大学ちば総合医療センター）、小岩文彦（昭和大学藤が丘病院）

演者：1) 療法選択の十分な説明とその課題 満生浩司（医療法人原三信病院）

- 2) 高齢者におけるアクセス作製の問題点 深澤瑞也（加納岩総合病院）
- 3) 高齢の末期腎不全患者に対する腹膜透析を再考する 櫻田 勉（聖マリアンナ医科大学）
- 4) 高齢血液透析患者の感染対策 中村 造（東京医科大学）
- 5) 腎代替療法導入困難・非導入の選択とその対応 酒井 謙（東邦大学）

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

透析医療における安全管理，災害と透析医療をテーマとした学術活動を行うとともに，災害時には関連団体と緊密に連携し対策を行った。

2) 災害対策小委員会（山川智之委員長）

- (1) 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（2023 年 6 月 16 日～18 日，神戸コンベンションセンター）において，災害に関する危機管理委員会企画を行った。

テーマ：「慢性腎臓病患者に特有の健康課題に適合した災害時診療体制の確保に資する研究の成果と提言」
司会：鶴屋和彦，山川智之

- ① 山川智之（仁真会白鷺病院）透析施設における災害時透析医療体制に関する調査研究
 - ② 赤塚東司雄（赤塚クリニック）透析患者の災害への準備に関する調査研究
 - ③ 雨宮守正（さいたま赤十字病院内科）大規模災害時における医薬品の供給に関する報告
 - ④ 宮崎真理子（東北大学）地方における県をまたいだ実際の災害対応，情報通報手段の利活用に関する調査研究
 - ⑤ 花房規男（東京女子医科大学）東京都における災害時透析医療体制の確保に関する調査研究
 - ⑥ 森上辰哉（元町 HD クリニック）災害時における情報共有ならびに行政等との連携に関する調査研究
- (2) 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会（2024 年 6 月 7 日～9 日，パシフィコ横浜）において，「地域における災害時透析医療確保の取り組み」をテーマとした災害に関する委員会企画を計画した。
 - (3) 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会（2022 年）の委員会企画の内容を透析会誌で報告した。
山川智之，森野一真，渡邊 潤，水政 透，宮本照彦，森上辰哉，鶴屋和彦．危機管理委員会報告 透析災害対策の課題と先進事例．透析会誌 2023；56(5)：151-9.

3) 医療安全対策小委員会（満生浩司委員長）

- (1) 医療事故調査報告制度に協力関体として登録しているが，医療事故調査・支援センターからの依頼で調査委員を派遣して，事故事例のセンター調査を担当している．本年度は 1 件の依頼があり，中国四国ブロックから個別調査部会の部会員 2 名を派遣した。
- (2) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し，必要に応じて委員の更新を行った。
- (3) 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会（2023 年 6 月 16 日～18 日，神戸コンベンションセンター）において，医療安全に関する危機管理委員会企画を行った。
テーマ：「透析医療事故と医療安全に関する調査報告」
司会：鶴屋和彦，満生浩司
 - ① 安藤亮一（医療法人社団石川記念会）調査報告の概要
 - ② 木全直樹（中野南口クリニック）抜針事故
 - ③ 土屋和子（横須賀クリニック）転倒・転落事故
 - ④ 山家敏彦（神奈川工科大学健康医療科学部臨床工学科）透析操作に関連した事故
 - ⑤ 宮崎真理子（東北大学）調査報告を今後の医療安全にどう生かすか
- (4) 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会（2024 年 6 月 7 日～9 日，パシフィコ横浜）において，「透析医療における医療安全のための提言作成に向けて」をテーマとした医療安全に関する委員会企画を企画した。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

1) 「日本透析医学会医学研究の利益相反に関する指針」に基づき、利益相反状態に関連した以下の事項を実施した。

- (1) 会員が総会等で発表する際の利益相反状態に関する情報開示
- (2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
- (3) 本学会の役員（理事長，理事，監事），総会会長，委員会委員長，特定の委員会ならびにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出

なお、会員の重大な利益相反状態や自己申告内容に関する疑義等の指摘はなく、それに伴う当委員会の開催はなかった。

14. 男女共同参画推進委員会

1) 男女共同参画推進委員会

日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を継続していくこととなった。

2) 小委員会の活動

(1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会とそれぞれ共同し、働き方改革について各学会の現状と施策を検討することとしているが継続して検討することとなった。

(2) 女性医師育成小委員会

① 第68回日本透析医学会学術集会・総会の学会・委員会企画7「男女共同参画推進委員会企画」において、以下の研究報告が行われた。

・第6回 TSUBASA PROJECT

琉球大学大学院医学研究科循環器・腎臓・神経内科学：大城菜々子先生
「SLEの維持透析患者における生命予後と性差」

(医) あかね会中島土谷クリニック透析センター：真島菜々子先生

「冠動脈CTを用いた透析患者の動脈効果の進展と性差についての検討」

・第7回 TSUBASA PROJECT

東京慈恵会医科大学附属病院腎臓・高血圧内科/京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻：小林亜理沙先生

「血液透析患者における性差が骨代謝や骨折発症リスクに与える影響についての検討」

社会医療法人友愛会友愛医療センター腎臓内科：江田はるか先生

「維持透析患者におけるADPKD透析患者の性差」

聖路加国際病院：門多のぞみ先生

「維持血液透析患者における予定外集中治療室入室に関する性差の検討」

東邦大学医療センター大森病院腎センター：前田真保先生

「腎移植後の妊娠・出産を起点とした母体の長期予後」

② 2023年度透析専門医勤務状況：「透析療法領域における男女共同参画実態調査」を実施した。

データを解析し、第69回日本透析医学会学術集会・総会の学会・委員会企画10「男女共同参画推進委員会企画」において結果を発表予定である。

15. 感染対策委員会

1) 感染対策委員会

- (1) 第 68 回日本透析医学会学術集会・総会において、以下 2 つの感染対策委員会企画を行った。
 - ・ With コロナ時代における透析施設での感染対策
 - ・ 透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン改訂の方向性
- (2) 2022 年から 2023 年にかけて、国内の同一透析施設において、HCV の新規感染者 5 名のアウトブレイクが発生した。

2023 年 10 月 30 日に、「国内の透析施設における C 型肝炎ウイルス (HCV) のアウトブレイクについて」をホームページに掲載して、会員に対して血液媒介感染症のアウトブレイクへの注意喚起を促した。

2023 年 11 月 1 日に感染対策委員会を開催し、当該施設への感染対策評価を行った経緯および実施した結果について報告した。

2) 新型コロナウイルス感染対策合同委員会

- (1) 2020 年から活動している、本学会と日本透析医会および日本腎臓学会による新型コロナウイルス感染対策合同委員会では、透析患者における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の患者数、ワクチン接種や治療の状況および重症度や致死率を把握して、会員に向けて定期的にホームページに掲載した。なお、2023 年 5 月 24 日時点の報告を以て、症例登録及び患者数報告を終了した。
- (2) 2023 年 4 月 27 日に、「新型コロナウイルス 5 類移行後の無症状・軽症患者の外来透析を行う際の隔離透析期間等の考え方について」を策定して、会員施設に啓発した。
- (3) 新型コロナウイルス感染対策合同委員会のデータに基づき、オミクロン株流行下における COVID-19 透析患者に対する抗ウイルス薬の効果についての論文報告を行った。

Kikuchi K, Nangaku M, Ryuzaki M, Yamakawa T, Yoshihiro O, Hanafusa N, Sakai K, Kanno Y, Ando R, Shinoda T, Wakino S, Nakamoto H, Takemoto Y, Akizawa T. Efficacy of molnupiravir and sotrovimab in Japanese dialysis patients with COVID-19 in clinical practice during the Omicron (BA.1 and BA.2) pandemic. *Ther Apher Dial* 2023 ; 27(6) : 1064-9. doi: 10.1111/1744-9987

- 3) 透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン改訂に向けたワーキンググループ
2022 年 11 月 11 日に、日本透析医会の発行する「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン」の改訂に向けたワーキンググループが発足した。このワーキンググループには、菊地 勘、竜崎崇和、吉藤 歩の 3 名が当学会からの推薦委員として参加し、当学会と日本透析医会、日本腎臓学会、日本環境感染学会、日本臨床工学技士会、日本腎不全看護学会の 6 団体での協力で改訂作業が行われた。2023 年 12 月 31 日に、日本透析医会より「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン (6 訂版)」が発行され、日本透析医学会の会員施設にこのガイドラインを配布した。

Ⅱ. 処務の概要

① 役員等に関する事項

(1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
理事長	武本佳昭	令和4年6月30日～ 選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	一般社団法人 大阪透析研究会 理事長
常任理事	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
同	酒井謙	同	非常勤	なし	
理事	小川哲也	同	非常勤	なし	
同	小川智也	同	非常勤	なし	
同	菅野義彦	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本臨床栄養学会 理事長
同	菊地勘	同	非常勤	なし	
同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
同	小岩文彦	同	非常勤	なし	一般社団法人 日本CKD-MBD学会 理事長
同	高橋直子	同	非常勤	なし	
同	鶴屋和彦	同	非常勤	なし	
同	友雅司	同	非常勤	なし	
同	花房規男	同	非常勤	なし	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化AI学会 代表理事
同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
同	廣谷紗千子	同	非常勤	なし	
同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
同	前野七門	同	非常勤	なし	
同	正木崇生	同	非常勤	なし	
同	宮崎真理子	同	非常勤	なし	
同	米田龍生	同	非常勤	なし	
同	脇野修	同	非常勤	なし	

(2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	内田潤次	令和4年6月30日～ 選任後2年以内に終了する事業年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
同	齋藤満	同	非常勤	なし	
同	鷺田直輝	同	非常勤	なし	

(3) 評議員

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
1	評議員	浅井利大	令和4年6月30日～ 選任後2年以内に終了する事業 年度の最終の総会終結時まで	非常勤	なし	
2	同	朝田啓明	同	非常勤	なし	
3	同	浅沼克彦	同	非常勤	なし	
4	同	東治人	同	非常勤	なし	
5	同	安達政隆	同	非常勤	なし	
6	同	阿部雅紀	同	非常勤	なし	
7	同	雨宮守正	同	非常勤	なし	
8	同	荒木信一	同	非常勤	なし	
9	同	荒木英雄	同	非常勤	なし	
10	同	安藤孝	同	非常勤	なし	
11	同	安藤忠助	同	非常勤	なし	
12	同	家原典之	同	非常勤	なし	
13	同	井尾浩章	同	非常勤	なし	
14	同	池田直史	同	非常勤	なし	
15	同	池田雅人	同	非常勤	なし	
16	同	猪阪善隆	同	非常勤	なし	
17	同	石井大輔	同	非常勤	なし	
18	同	石田英樹	同	非常勤	なし	
19	同	石橋由孝	同	非常勤	なし	
20	同	和泉雅章	同	非常勤	なし	
21	同	磯野元秀	同	非常勤	なし	
22	同	井手健太郎	同	非常勤	なし	
23	同	伊藤孝史	同	非常勤	なし	
24	同	稲熊大城	同	非常勤	なし	
25	同	今田崇裕	同	非常勤	なし	
26	同	今田直樹	同	非常勤	なし	
27	同	岩谷博次	同	非常勤	なし	
28	同	植木嘉衛	同	非常勤	なし	
29	同	植田敦志	同	非常勤	なし	
30	同	内田潤次	同	非常勤	なし	
31	同	海老原至	同	非常勤	なし	
32	同	絵本正憲	同	非常勤	なし	
33	同	大島直紀	同	非常勤	なし	
34	同	大田和道	同	非常勤	なし	
35	同	大田聡	同	非常勤	なし	
36	同	大坪茂	同	非常勤	なし	
37	同	大橋靖	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
38	同	大前清嗣	同	非常勤	なし	
39	同	大森 聡	同	非常勤	なし	
40	同	大家基嗣	同	非常勤	なし	
41	同	岡田浩一	同	非常勤	なし	
42	同	小川千恵	同	非常勤	なし	
43	同	小川哲也	同	非常勤	なし	
44	同	小川智也	同	非常勤	なし	
45	同	角田隆俊	同	非常勤	なし	
46	同	柏木哲也	同	非常勤	なし	
47	同	春日弘毅	同	非常勤	なし	
48	同	片山 鑑	同	非常勤	なし	
49	同	加藤明彦	同	非常勤	なし	
50	同	金井英俊	同	非常勤	なし	
51	同	金田幸司	同	非常勤	なし	
52	同	上條祐司	同	非常勤	なし	
53	同	亀井大悟	同	非常勤	なし	
54	同	川合 徹	同	非常勤	なし	
55	同	川口祐輝	同	非常勤	なし	
56	同	神田英一郎	同	非常勤	なし	
57	同	菅野義彦	同	非常勤	なし	
58	同	菊地 勘	同	非常勤	なし	
59	同	菊池正雄	同	非常勤	なし	
60	同	北村健一郎	同	非常勤	なし	
61	同	木村朋由	同	非常勤	なし	
62	同	熊田憲彦	同	非常勤	なし	
63	同	倉賀野隆裕	同	非常勤	なし	
64	同	小出滋久	同	非常勤	なし	
65	同	小岩文彦	同	非常勤	なし	
66	同	合田朋仁	同	非常勤	なし	
67	同	河野圭志	同	非常勤	なし	
68	同	小久保謙一	同	非常勤	なし	
69	同	後藤順一	同	非常勤	なし	
70	同	後藤俊介	同	非常勤	なし	
71	同	古波蔵健太郎	同	非常勤	なし	
72	同	小向大輔	同	非常勤	なし	
73	同	米田雅美	同	非常勤	なし	
74	同	今 裕史	同	非常勤	なし	
75	同	齋藤 修	同	非常勤	なし	
76	同	齋藤知栄	同	非常勤	なし	
77	同	齋藤 満	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
78	同	酒井 謙	同	非常勤	なし	
79	同	酒井 行直	同	非常勤	なし	
80	同	櫻田 勉	同	非常勤	なし	
81	同	佐々木 環	同	非常勤	なし	
82	同	佐藤 武司	同	非常勤	なし	
83	同	佐藤 元美	同	非常勤	なし	
84	同	里中 弘志	同	非常勤	なし	
85	同	柴原 宏	同	非常勤	なし	
86	同	島田 久基	同	非常勤	なし	
87	同	島野 泰暢	同	非常勤	なし	
88	同	常喜 信彦	同	非常勤	なし	
89	同	庄司 哲雄	同	非常勤	なし	
90	同	新宅 究典	同	非常勤	なし	
91	同	杉浦 寿央	同	非常勤	なし	
92	同	杉山 齐	同	非常勤	なし	
93	同	鈴木 朗	同	非常勤	なし	
94	同	鈴木 一裕	同	非常勤	なし	
95	同	鈴木 利彦	同	非常勤	なし	
96	同	須田 伸	同	非常勤	なし	
97	同	副島 一晃	同	非常勤	なし	
98	同	祖父江 理	同	非常勤	なし	
99	同	高田 知朗	同	非常勤	なし	
100	同	高橋 直子	同	非常勤	なし	
101	同	滝沢 英毅	同	非常勤	なし	
102	同	滝本 千恵	同	非常勤	なし	
103	同	竹岡 浩也	同	非常勤	なし	
104	同	竹田 徹朗	同	非常勤	なし	
105	同	武本 佳昭	同	非常勤	なし	
106	同	田代 学	同	非常勤	なし	
107	同	田中 賢治	同	非常勤	なし	
108	同	田中 哲洋	同	非常勤	なし	
109	同	田中 啓之	同	非常勤	なし	
110	同	谷口 正智	同	非常勤	なし	
111	同	谷山 佳弘	同	非常勤	なし	
112	同	玉垣 圭一	同	非常勤	なし	
113	同	田村 功一	同	非常勤	なし	
114	同	丹野 有道	同	非常勤	なし	
115	同	塚田 三佐緒	同	非常勤	なし	
116	同	辻本 吉広	同	非常勤	なし	
117	同	鶴屋 和彦	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
118	同	寺田典生	同	非常勤	なし	
119	同	土井研人	同	非常勤	なし	
120	同	土井盛博	同	非常勤	なし	
121	同	徳本正憲	同	非常勤	なし	
122	同	徳山博文	同	非常勤	なし	
123	同	友雅司	同	非常勤	なし	
124	同	友利浩司	同	非常勤	なし	
125	同	内藤省太郎	同	非常勤	なし	
126	同	仲川嘉紀	同	非常勤	なし	
127	同	中倉兵庫	同	非常勤	なし	
128	同	中田純一郎	同	非常勤	なし	
129	同	長田太助	同	非常勤	なし	
130	同	長門谷克之	同	非常勤	なし	
131	同	長沼俊秀	同	非常勤	なし	
132	同	中野敏昭	同	非常勤	なし	
133	同	中ノ内恒如	同	非常勤	なし	
134	同	中村典雄	同	非常勤	なし	
135	同	中村道郎	同	非常勤	なし	
136	同	中山晋二	同	非常勤	なし	
137	同	鍋島邦浩	同	非常勤	なし	
138	同	成瀬友彦	同	非常勤	なし	
139	同	西尾妙織	同	非常勤	なし	
140	同	錦戸雅春	同	非常勤	なし	
141	同	西澤欣子	同	非常勤	なし	
142	同	西田隼人	同	非常勤	なし	
143	同	西野友哉	同	非常勤	なし	
144	同	二瓶大	同	非常勤	なし	
145	同	野口智永	同	非常勤	なし	
146	同	橋本幸始	同	非常勤	なし	
147	同	長谷川毅	同	非常勤	なし	
148	同	長谷川元	同	非常勤	なし	
149	同	花房規男	同	非常勤	なし	
150	同	浜崎敬文	同	非常勤	なし	
151	同	早川和良	同	非常勤	なし	
152	同	林晃正	同	非常勤	なし	
153	同	原澤信介	同	非常勤	なし	
154	同	原田浩	同	非常勤	なし	
155	同	播本幸司	同	非常勤	なし	
156	同	春口洋昭	同	非常勤	なし	
157	同	樋口輝美	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
158	同	平間章郎	同	非常勤	なし	
159	同	平山浩一	同	非常勤	なし	
160	同	平和伸仁	同	非常勤	なし	
161	同	廣谷紗千子	同	非常勤	なし	
162	同	深澤瑞也	同	非常勤	なし	
163	同	古市賢吾	同	非常勤	なし	
164	同	本田浩一	同	非常勤	なし	
165	同	前野七門	同	非常勤	なし	
166	同	政金生人	同	非常勤	なし	
167	同	正木崇生	同	非常勤	なし	
168	同	升谷耕介	同	非常勤	なし	
169	同	松尾七重	同	非常勤	なし	
170	同	松岡哲平	同	非常勤	なし	
171	同	松下和通	同	非常勤	なし	
172	同	松田洋人	同	非常勤	なし	
173	同	松原雄	同	非常勤	なし	
174	同	丸山高史	同	非常勤	なし	
175	同	丸山範晃	同	非常勤	なし	
176	同	丸山之雄	同	非常勤	なし	
177	同	三浦健一郎	同	非常勤	なし	
178	同	水崎浩輔	同	非常勤	なし	
179	同	水野正司	同	非常勤	なし	
180	同	三瀬直文	同	非常勤	なし	
181	同	溝渕正英	同	非常勤	なし	
182	同	満生浩司	同	非常勤	なし	
183	同	水口齐	同	非常勤	なし	
184	同	宮崎真理子	同	非常勤	なし	
185	同	宮園素明	同	非常勤	なし	
186	同	宮本哲	同	非常勤	なし	
187	同	村上円人	同	非常勤	なし	
188	同	森克仁	同	非常勤	なし	
189	同	森建文	同	非常勤	なし	
190	同	森下義幸	同	非常勤	なし	
191	同	森本耕吉	同	非常勤	なし	
192	同	森山能仁	同	非常勤	なし	
193	同	矢島愛治	同	非常勤	なし	
194	同	安田日出夫	同	非常勤	なし	
195	同	矢内充	同	非常勤	なし	
196	同	柳田太平	同	非常勤	なし	
197	同	山縣邦弘	同	非常勤	なし	

	役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	備考
198	同	山 川 智 之	同	非常勤	なし	
199	同	山 岸 敬	同	非常勤	なし	
200	同	山 口 邦 久	同	非常勤	なし	
201	同	山 下 芳 久	同	非常勤	なし	
202	同	山 田 剛 久	同	非常勤	なし	
203	同	山 中 正 人	同	非常勤	なし	
204	同	山 本 泉	同	非常勤	なし	
205	同	山 本 卓	同	非常勤	なし	
206	同	横 地 章 生	同	非常勤	なし	
207	同	吉 田 理	同	非常勤	なし	
208	同	吉 田 英 昭	同	非常勤	なし	
209	同	吉 武 理	同	非常勤	なし	
210	同	吉 嶺 陽 仁	同	非常勤	なし	
211	同	米 田 龍 生	同	非常勤	なし	
212	同	頼 建 光	同	非常勤	なし	
213	同	若 井 陽 希	同	非常勤	なし	
214	同	若 杉 三 奈 子	同	非常勤	なし	
215	同	脇 野 修	同	非常勤	なし	
216	同	涌 井 広 道	同	非常勤	なし	
217	同	鷺 田 直 輝	同	非常勤	なし	
218	同	和 田 篤 志	同	非常勤	なし	
219	同	和 田 隆 志	同	非常勤	なし	
220	同	和 田 健 彦	同	非常勤	なし	

(4) 退任した役員等
該当なし

(5) 役員等の報酬等

区 分	人 数	報酬等の総額	備 考
理 事	22名	なし	
監 事	3名	なし	
評 議 員	220名	なし	
合 計	245名		

② 会員に関する事項

会員種別	員 数		増 減 数	摘 要
	今年度末	前年度末		
	2024年3月31日現在	2023年3月31日現在		
正 会 員	14,231	14,198	33	
施設会員	4,177	4,162	15	
賛助会員	58	60	-2	
名誉会員	53	52	1	
計	18,519	18,472	47	

③ 職員に関する事項

令和5年度末現在

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備 考
事務局長	常 勤	小 島 吉 晴	令和5年4月1日	総括管理	

④ 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	会議の結果
令和5年6月1日 第1回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入会・退会に関する件 2. 令和5年度日本透析医学会賞（木本賞）・奨励賞の選考に関する件 3. 令和4年度事業報告（案）に関する件 4. 令和4年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等に関する件 5. 令和4年度監事による監査報告に関する件 6. 日本腎代替療法医療専門職推進協会評議員候補者の推薦に関する件 7. 次世代医療機器・再生医療等製品評価指標作成事業 8. 規則の制定に関する件 9. 規則等の一部改正に関する件 10. 本学会と第29回日本血液透析濾過医学会学術集会・総会との合同シンポジウムの開催に関する件 11. 第7回TSUBASA PROJECT助成金交付決定通知書の交付について 12. 第68回通常総会開催に関する件 13. 第68回学術集会・総会開催時の各賞表彰式次第（案）に関する件 14. 第68回（令和5年）学術集会・総会に関する件 15. 第69回（令和6年）学術集会・総会に関する件 16. 第70回（令和7年）学術集会・総会に関する件 17. 委員会委員の追加について 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>
令和5年6月15日 第2回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第68回通常総会の進行に関する件 2. 過疎地等における透析医療の提供体制に関する検討ワーキンググループへの委員の推薦について 3. 委員会委員の交代について 4. 統計調査データを用いた研究に関する件 5. 規則の一部改正に関する件 6. 第69回（令和6年）学術集会・総会に関する件 7. 第70回（令和7年）学術集会・総会に関する件 	<p>全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認</p>

(2) 総 会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 5 年 6 月 15 日 通常総会	1. 令和 4 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書等についての承認に関する件 2. 名誉会員推薦に関する件 3. 第 71 回総会並びに会長に関する件	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認

(3) 各種委員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
・総務委員会	「該 当 な し」	
・財務委員会 令和 6 年 3 月 16 日	1. 2024 年度予算（案）について 2. 2024 年度新規事業計画に伴う概算要求（案）について 3. 2024 年度事業計画（案）について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・編集委員会	「該 当 な し」	
・学術委員会 令和 5 年 4 月 21 日	1. 学会賞・奨励賞の選考に関する件 2. 日本透析医学会賞（木本賞）・奨励賞選考内規の一部改正について 3. 学術委員会 血液浄化に関する新技術検討小委員会委員の追加について	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・統計調査委員会 令和 5 年 5 月 31 日	1. 海外の EDC 事例の紹介 2. 2022 年調査のまとめ 3. 2022 年現況報告案, CD-ROM 帳票案の提示 4. 2021 年調査, 2019 年調査 再集計について 5. 2023 年（次年）調査内容について検討 6. 解析小委員会からの報告 7. 第 68 回学術集会 統計調査委員会企画 8. 公募研究の再開について 9. SharE-RR 報告 10. WADDA システム引用形式（案）	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 5 年 8 月 16 日	1. 2022 年調査のまとめと今後の予定, WEB によるデータ収集等 2. 2022 年調査 現況報告, CD-ROM 帳票 3. 2023 年調査内容の決定 4. 2023 年調査研究計画書, 倫理関連書類（理事会, 倫理審査, HP 公開用）の作成, UMIN 登録について 5. 公募研究再開について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
令和 5 年 10 月 18 日	6. “統計調査データを用いた研究の進め方に関する内規” 一部内容の見直しについて 7. 解析小委員会報告 8. 他団体へのデータ提供（USRDS）について 9. 2023 年 69 回学術集会での委員会企画 10. 東京都 疾病対策課からの依頼について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
	1. 2023 年調査内容について 2. 2022 年現況報告, CD-ROM 帳票 3. 統計調査データの二次利用について 4. 公募研究 5. 「統計調査データを用いた研究の進め方に関する内規」一部内容の見直しについて 6. EDC WEB 上での患者登録について業者へのコンタクト 7. 2024 年学術集会 委員会企画 8. 透析患者数の新しい推計について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 6 年 2 月 21 日	<ol style="list-style-type: none"> 2023 年調査の経過報告と今後のスケジュールについて 2023 年度事業計画の検討と 2022 年度事業報告の確認 第 69 回日本透析医学会 統計調査委員会企画について 患者数予測について 統計調査用エクセルファイル目的外使用届について データの提供依頼 公募研究について EDC の件について ShareRR について 解析小委員会からの報告 	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・専門医制度委員会 令和 5 年 9 月 10 日 令和 5 年 11 月 24 日 令和 6 年 3 月 20 日	<ol style="list-style-type: none"> 2023 年度専門医認定申請書類審査について 2023 年度専門医認定試験要項について 2023 年度専門医認定試験について 特例申請について 2023 年度認定施設・教育関連施設（新規・更新）審査結果報告について 2023 年度専門医認定試験結果報告について 専門医制度規則・施行細則一部修正について 全国規模学術集会認定申請について 日本専門医機構サブスペシャルティ領域について 認定期限 2024 年 3 月 31 日までの専門医認定更新審査結果について 2023 年度 第 34 回 指導医認定審査結果について 認定期限 2024 年 3 月 31 日までの指導医認定更新審査結果について 地方学術集会、生涯教育プログラム、全国規模学術集会について 	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・国際学術交流委員会 令和 5 年 8 月 17 日 令和 5 年 10 月 5 日	<ol style="list-style-type: none"> 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会の国際学術交流委員会企画について 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会に関する件 	全会一致で承認 全会一致で承認
・評議員選出委員会 令和 5 年 9 月 15 日 令和 5 年 12 月 8 日 令和 6 年 2 月 22 日	<ol style="list-style-type: none"> 第 7 回評議員選出日程（案）について 評議員選出公示について 地方区定数公示について 有権者名簿の公示について 評議員立候補申請書について 評議員選出規則第 21 条関係について 会告 第 7 回評議員選挙の立候補者について 第 7 回評議員立候補者数について 会告 第 7 回評議員選挙立候補者氏名について 立候補条件抵触者の取扱いについて 会告 第 7 回評議員選挙の有権者の訂正及び追加について 有権者異議申し立て者の取扱いについて 投票用紙及び投票に関する注意事項について 開票立会人の選出について 開票立会人について 第 7 回評議員選出に関わる開票について 第 7 回評議員当選に関わる公示について 選挙効力に関して異議の申し立てについて 当選者の繰上げ、補充について 	全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認 全会一致で承認
・保険委員会 令和 5 年 8 月 16 日	<ol style="list-style-type: none"> 保険委員会から総務委員会に移して議論された内容の報告 透析関連の小分子ヘパリン、炭酸ランタン、ビスファージェンの不採算に対する厚労省への当会からの依頼に関して 	報告・承認 報告・承認

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和 6 年 2 月 7 日	1. 「心臓手術の説明に関する指針」作成についての報告 2. 「在宅透析患者に於ける遠隔モニタリング加算」についての報告	報告・承認 報告・承認
・倫理委員会 令和 5 年 9 月 19 日	1. 日本透析医学会統計調査にかかわる臨床研究倫理審査について	全会一致で承認
・腎不全総合対策委員会	「該 当 な し」	
・危機管理委員会 令和 5 年 10 月 30 日	1. 令和 4 年度の事業報告について 2. 第 69 回学術集会・総会の災害対策小委員会の委員会企画 3. 第 69 回学術集会・総会の医療安全小委員会の委員会企画 4. 日本医療安全調査機構への協力について	報告・承認 報告・承認 報告・承認 報告・承認
・研究者の利益相反等検討委員会	「該 当 な し」	
・男女共同参画推進委員会	「該 当 な し」	
・感染対策委員会 令和 5 年 11 月 1 日	1. 国内の透析施設における HCV のアウトブレイクについての報告 2. 透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン（六訂版）の発行について	報告・承認 報告・承認

⑤ 許可，認可，承認等に関する事項

申請月日	申 請 事 項	許可等月日	備 考
	「該 当 な し」		

⑥ 重要な契約に関する事項

契約年月日	相 手 方	契 約 の 概 要
	「該 当 な し」	

事業報告の附属明細書

1. 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職状況

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係	
理事長	武 本 佳 昭	特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	監 事	一 部	
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	一 部	
		一般社団法人 大阪透析研究会	理事長	一 部	
		特定非営利活動法人 日本 HPM 研究会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	監 事	一 部	
常任理事	阿 部 雅 紀	特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	副理事長	一 部	
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	副理事長	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部	
	猪 阪 善 隆	一般社団法人 日本腎臓学会	副理事長	一 部	
		一般社団法人 大阪透析研究会	幹 事	一 部	
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	一 部	
		公益社団法人 大阪ハートクラブ	理 事	関係なし	
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部	
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部	
	酒 井 謙	一般社団法人 日本移植学会	幹 事	ほぼ同一	
		公益社団法人 日本透析医会	幹 事	ほぼ同一	
		一般社団法人 日本腎代替療法医療専門職推進協会	理 事	一 部	
		一般社団法人 日本臨床腎移植学会	理 事	ほぼ同一	
	理 事	小 川 智 也	特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
			一般社団法人 日本サイコネフロロジー学会	理 事	一 部
特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会			理 事	一 部	
特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会			理 事	一 部	
一般社団法人 日本アフレス学会			理 事	一 部	
一般社団法人 日本在宅血液透析学会			副理事長	一 部	
特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会			理 事	一 部	
菅 野 義 彦		一般社団法人 日本臨床栄養学会	理事長	関係なし	
		一般社団法人 日本病態栄養学会	理 事	関係なし	
		一般財団法人 日本栄養療法推進協議会	副理事長	関係なし	
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部	
菊 地 勘		公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一	
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一	
倉 賀 野 隆 裕		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	副理事長	一 部	
小 岩 文 彦		一般社団法人 日本 CKD-MBD 学会	理事長	関係なし	
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	関係なし	
高 橋 直 子		特定医療法人 あかね会	理 事	関係なし	

区 分	氏 名	兼 職 先 法 人 等	兼職の内容	関 係
理 事	高 橋 直 子	医療法人社団 誠風会	理 事	関係なし
	鶴 屋 和 彦	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	関係なし
	友 雅 司	特定非営利活動法人 日本腹膜透析医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本血液透析濾過医学会	理 事	一 部
		認定特定非営利活動法人 腎臓病早期発見推進機構	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	副理事長	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	監 事	一 部
	花 房 規 男	一般社団法人 日本アフレスシス学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本急性血液浄化学会	理 事	一 部
		一般社団法人 日本病態栄養学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本医工学治療学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	代表理事	一 部
	平 和 伸 仁	神奈川県透析医会	理 事	一 部
		一般社団法人 米国内科学会日本支部	理 事→ 監事(7月~)	関係なし
	深 澤 瑞 也	特定非営利活動法人 日本透析アクセス医学会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 ハイパフォーマンス・メンブレン研究会	理 事	一 部
		特定非営利活動法人 日本透析合併症医学会	理 事	一 部
	前 野 七 門	仁楡会札幌病院	理 事	一 部
	正 木 崇 生	一般社団法人 中国腎不全研究会	広島県理事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎・血液浄化 AI 学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本 HDF 医学会	理 事	ほぼ同一
		特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	ほぼ同一
		公益社団法人 日本透析医会	理 事	ほぼ同一
	宮 崎 真 理 子	一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会	理 事	ほぼ同一
		一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	ほぼ同一
米 田 龍 生	一般社団法人 日本移植学会	理 事	ほぼ同一	
脇 野 修	一般社団法人 日本腎臓学会	理 事	一 部	
	一般社団法人 日本臨床栄養学会	理 事	一 部	
	一般社団法人 日本腎不全合併症学会	理 事	一 部	
監 事	内 田 潤 次	一般社団法人 大阪腎泌尿器疾患研究財団	理 事	関係なし
		公益財団法人 大阪腎臓バンク	理 事	関係なし
		一般社団法人 大阪泌尿器科臨床医会	理 事	関係なし
		一般社団法人 日本臨床腎移植学会	理 事	関係なし
	齋 藤 満	公益財団法人 あきた移植医療協会	理 事	関係なし
	鷺 田 直 輝	特定非営利活動法人 日本腎不全合併症医学会	理 事	一 部

2. その他の記載事項

その他事業報告の内容を補足する重要な事項はない。